

「小川未明新収童話集」収録作品一覧

第1巻（五五篇）

- 【明治三九（一九〇六）年】  
百合花  
迷ひ路  
天使の御殿  
銀の笛  
オルガンの音色  
月と山兔  
青帽探険隊  
白い百合と紅い薔薇  
嵐の夜  
【明治四二（一九〇九）年】  
おとめ  
【明治四三（一九一〇）年】  
花子の記憶  
森  
馬と金持
- 才治と大力源蔵  
二郎と美代ちやん  
憐れな家鴨  
お濠あそび  
月の宮  
【明治四五（一九一二）年】  
燕  
【大正三（一九一四）年】  
野を越えて  
【大正四（一九一五）年】  
まだ見ぬ町へ  
【大正五（一九一六）年】  
秋逝く頃  
【大正六（一九一七）年】  
兄弟の獵人  
いろ／＼な罰  
私の見た夢  
妖魔と少年  
馬鹿の大臣

【大正七（一九一八）年】

時計の話

三人の皇子

月夜と少年

北国の秘密

【大正八（一九一九）年】

白い馬

汽車の中の人々

誰が一番悪いか

赤い天蓋

兄と妹

百姓と蛇

【大正九（一九二〇）年】

よく働く百姓

S爺さんの話

少年と老人

【大正一〇（一九二一）年】

青い着物をきた子供

世界一の幸福者

ある時の兄と弟

暑くも寒くもない国

燕のかへる時

錆びた鍵

【大正一一（一九二二）年】

花と少年

小鳥の死

ランプと花びら

二郎の玩具

少年と音楽家

【大正一二（一九二三）年】

羊の女王

沙の上にて

子供の知らなかつたこと

姉さんの後悔

第2巻（五二篇）

【大正一三（一九二四）年】

箱の中の植物

北へ帰る鳥

臆病な人

雪の上の血

いたづら子と梟

知らないをばさん

木の下の話

解けない謎

大きな荷物

坂下の赤い店

子供と小鳥の話

【大正一四（一九二五）年】

冬の日のくれがた

少女

はかない約束

白刃に戯る火

朝の鐘鳴る町

六月の花壇

夏雲を浮べる流

又来年の夏まで

靄につまられたお嬢様

小猫と鼠の話

【大正一五（一九二六）年】

路傍の花

池についての話

町の案山子

ありんす きりんす

桃の実の熟する頃

鸚哥に指輪をはめた女

石の見た世の中

路傍の建札―大人の童話―

托鉢僧と蝶

一疋の猫と世の中

魚と人

暴風

月の妖術

生物動揺

おぢいさんの時計

年ちやんの話

鳩呼ぶ笛

二人のお婆さんの話

春の夜の白い馬

月と白壁の倉

約束したけれど

【昭和二（一九二七）年】

娘と若者

山桜

町の医者

さまよへる白い影

二人の少年

薔薇と月

赤い睡蓮

草原のフアンタジー

夏雲の下の少女

雲になつた女

第3巻（一〇三篇）

【昭和三（一九二八）年】

冬のない国へ

【昭和四（一九二九）年】

橋の雞

冬から春へ

波と赤い椿の花

正月のある晩の話

街の時計

紅い花

別れて誠を知つた話

彼等の悲哀と自負

野鼠から起つた話

M少年の回想

雲の降る頃

【昭和五（一九三〇）年】

木と少年の愛

今年ノ春ト去年ノ小鳥

見事な贈物

汽車の中

田舎と都会

雲、雲、イロイロナ雲

【昭和六（一九三二）年】

ハナ ト ミヅグルマ

田舎のおぢいさんへ

りんどうの咲くころ

ペスの一生

みんなかうして待つ

【昭和七（一九三二）年】

冬の休日

おねえさんと勇ちゃん

チヨコレートノ、ニホヒガシマス

都会の片隅

彼と木の話

幸福

三階のお婆さん

金めだか

涯しなき雪原

シヤメと武ちゃん

明治節

たまとうぐひす

【昭和八（一九三三）年】

かぜのない あたたかい日

モウヂキ サクラノ ハナガ サキマス

アマリス ト 駱駝

ツユ ノ イリ

草原で見た話―だから神は愛を与えた―

秋ノ野

柿

生存する姿

酒場の主人

鼠 ト タンク

土を忘れた男

雪ニ ウズモレタ 小学校

狼とチヨコレート

【昭和九（一九三四）年】

カド松ノ アル 卅ナカマチ

オレンジの み

チチザル ノ オハナシ

こぶしの花

天長節

学校の帰り道

春蚕ガ カヘリマシタ

晩春

銀狐

帽子 ノ 日オホヒ

偶然の支配

ホシ祭 ガ チカヅキマシタ

後押し

行水

なつの ある日

研屋の述懐

おかあさんの およろこび

からす の やくそく

おとした てぶくろ

いちばん だこ

かみしばゐ の をちさん

石

貰ハレテ来タ ポチ

除隊

徒競走

みんな いい子 でしょう

きくのはな と シヤボンだま

自然の素描—大人読的童話—

正ちゃんと のぶるさん

【昭和一〇（一九三五）年】

オ宝ヤ オ宝ヤ

カンジキ ノ 話

ネズミ ト オホヲトコ

こたつに はいって

モノワスレ ノ カラスクン

はつゆきが ふりました

てるてるぼうず

カガシ ト スズメ

うんどうかい

ひら／＼ ちようちよう

兄弟の子猫

炉辺ノ兄ト妹

坂田金時

海軍キネン日

アルヒ ノ シヤウチヤン

ジャツク ト 小犬

ユウダチ ト コスズメ

雨

日記をつけませう

田うえ

小さな愛らしきもの

やさしい母犬

カガシ

みのり

くひしんぼうの花子さん

にぎやかな笑ひ

冬の蟬

ある朝のお母さん

霜の朝

スハ湖

波の音

窓ノ外へ春ガ来タ

りこうな おさるさん

たなごと 年ちゃん

かみしばいと ゆうちゃん

鼠の絵はがき

年ちゃんのピツチャー

灯のついた町

北の方から来た汽車

タンボミチ

雷魚と猫

ナツミカン ト シロサタウ

燕と月

小父サン バンザイ

公園の入口

第4巻(八四篇)

【昭和一一(一九三六)年】

田舎道

ぐみの木と蜂

自分の喜びを捨て

那須与一

アマイ クリ ト シブイ カキ

北斗七星ノ話

町から来た子

やさしい心の満足

ある日のお母さん

鉄瓶と急須の話

彼方の町へ

葉のついた蜜柑

不思議な船の話

【昭和一二（一九三七）年】

たけちゃんの しっぱい

ヲドリ ヲ ミニ イッタ 義雄サン

パパ ノ ヒゲ

兄弟と鳩

正チャン ハ オリコウ

クワンクワウ船 ガ キマシタ

キカンバウズ

正チャン ト オバアサン

勇君と野犬

山の少年と町の少年

小さいものをいたはる

ケフ カラ イイ オトモダチ ニ

小僧さんと九官鳥

蚕

ハル ノ 日ナガ

ゆであづき

ピチピチした魚

一本橋

良ちやんと林檎

ミチクサ

僕も戦争に行くのだ

友情

秋の暮

【昭和一三（一九三八）年】

嵐の中

まだ冬だけけれど  
タカラノシマ  
オヂイサンノフエ  
にぎやかな町へ  
お宝の島  
オツトセイ  
初夏の晩  
クロイメガネ  
とんぼ捕り  
野中のチンドンヤ  
ジグフリード  
勇坊とタンク  
魚捕りの記  
かめとがん  
電話  
山へ雪が来ました  
ウイリヤム・テル  
ヤネノアシオト  
お父さん

小さな兄弟  
戦地の兄さんへ  
人と花の話  
春と古い三輪車  
雨がはれました  
兄の夜襲  
秋の運動会  
にんじんと西瓜の話  
モンペをはいた小母さん

### 第5巻（九七篇）

【昭和一四（一九三九）年】

朝まだ早し  
チイ子チヤント テリヤノ子  
旗竿と葱  
公園を出ると  
雪の積つた村  
正直な小僧さん  
田舎のおぢいさん

星の降る夜  
子供の世界  
虎刈頭  
絵の展覧会  
叔父さんの風ぐすり  
独りぼつちの鳩  
姉と弟  
気の浮立つ日曜  
靴  
川端  
町の鳥屋  
煙は上る  
溪川のほとり  
東郷元帥ノ話  
才積迦サマ  
二宮尊徳  
曾我兄弟  
ポチ ノ オバカサン  
国境守備隊ノ兵隊サン

雪フル村ノ 子供たち  
正チャン ト ツユ子サン  
アカチャン ト コネコ  
ジラウサン ノ テツパウ  
ナカナホリ  
カンシンナ 一ネンセイ  
ワンワン ノ シンブン  
猫の肺炎  
野中の川  
小さなお客様  
田舎  
カリウドト クマ  
くもの すと はち  
マイ日 ツカッタ ユワカシ  
ニガス モ ユクワイ  
ススンデ ムカヘニ イケ  
ヒトリボツチ ノ 少年  
正チャン ト 花火 ノ 音  
トホイ ミチ ヲ 行ク ココロ

ツクエ ニ ムカッテ 本ヲヨメ

ゲンキ ヨク ハタラク コドモ

オヤクソク ヲ マモレ

先生の征かれた秋

隣の小母ちゃん

蜂にもお菓子

飛行機

ある日の姉と弟

春の雷

川へ、海へ

【昭和一五（一九四〇）年】

是等の子供達

宝船に乗って

みい子ちゃんのお母さん

アカイ キレイナ キモノ

太郎さんのでつぱう

雪降る村の子供と犬

山の鼻

春の晩方

松風の音

坊やも強くなれ

はたけに咲いた花達

頬白と兄弟

ピアノガ ポンポコポン

少年の日記

一度来た処

お魚の顔

ボクハ イイ子ダラウカ

画家と少年

君強くなれ

ある日の兄弟

小さな勇士

犬を助ける

お魚よりお菓子

世の中を見る目

先生と鳩

七五三ノ オマキリ

秋の日曜日

【昭和一六（一九四二）年】

才友ダチ

デンシヤノ ナカ

お菓子の夢

小鳥と少年

カヒ ト ネコ ノ ハナシ

お祭の日のこと

二人の子供

ツバメトスズメ

アスファルト ノ ミチ

雀の巣と蓄音機

カニウリノ オヂイサン

くわいらん板

にはか雨

ハタラク コゾウサン

僕の小さな弟

第6巻（六三篇）

【昭和一七（一九四二）年】

ばうやと お母さん

まさちゃん としちゃん

ハナ トムシ

りっぱな 心

友だちとの やくそく

日の丸の 旗

頸輪

あのこの ないた とき

らっぱの おと

まちの お正月

お母さんの かはり

兄の出征まで

旗を持った少年

小犬

兵たいさんが すき だ

【昭和一八（一九四三）年】

正直な正治

みんな心は一つ

まちにわかるる をぢさん

ハチマンサマ

オトウサント オカアサン

みんなお母さんの方を向いて

あら海の魚

【昭和一九（一九四四）年】

太平洋

タカ ト ウミワシ

ユウキチ ノ スキナ ヒト

ボク モ ウテルズ

【昭和二一（一九四六）年】

春よ早く来い

オ月サマト キンギョ

お隣のよろこび

おはぐろとんぼ

【昭和二二（一九四七）年】

少年のまごころ

白のいるところへ

ぼくの小さな弟

【昭和二三（一九四八）年】

金で買えない仕合せ

うらしま太郎

【昭和二四（一九四九）年】

羽とコマ

そらには たこ

【昭和二六（一九五一）年】

なぜ僕はさびしいか

【昭和二七（一九五二）年】

おかあさん

赤いげた

コンパクトと虫

村へいくバス

【昭和二八（一九五三）年】

古いつぼ

鯉幟と燕の話

やんまと空とぶえんぼん

思いやり―人と犬の話―

ザクロの実

【昭和二九（一九五四）年】

トンビダコ

うめの花のおねえさん

都会の午後五時―逢魔が時のお伽噺―

こもりうた

北風のおじいさんと小鳥たち

ある日のおじいさん

金づちのひびき

ばくだんと たましい

【昭和三〇（一九五五）年】

鈴のついたきんちやく

とおい北国のはなし

おばあさんの心

春の空と赤ちゃん

【昭和三一（一九五六）年】

おじいさんと孫

よろこびからす

【昭和三二（一九五七）年】

くちまねする とりとおひめさま

ふく助人形の話